

研究者の横顔

フリガナ	クリモト リョウタ		
お名前	栗本 遼太	助成金額	100 万円
ご所属	千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学講座		
研究テーマ	がん翻訳異常の鍵を握るmRNA修飾：不均一性の可視化と次世代標的治療への展開		

1：研究者になろうとしたきっかけ

喫煙者であった父を見て、子供ながらにストレスにさらされている人ほどがんのリスクが高いというのは不条理だと感じ、がんに関わる医師になりました。その後医師としてがん患者さんの診療に関わる中で、必ずと言っていいほど「治療抵抗性」という課題に直面しました。がんは抗がん剤のイタチごっこを終わらせる方法はないか。治療抵抗性が生まれてくる根源、「治療抵抗のゲノム変異の獲得」のさらにその前にある“まだ見えない層の制御”の存在を明らかにしたいと思い、研究者を志しました。

2：助成研究の内容紹介

本研究では、治療抵抗性の背景にあるがんの不均一性に着目し、その特徴をmRNA修飾で説明する「mRNA修飾によるがんの不均一性」を明らかにします。
ゲノム暗号から転写されたRNAは、数多くの修飾を受けていますが、タンパク質に翻訳されるmRNA内部の修飾情報はこれまで技術的な課題から十分に明らかにされてきませんでした。本研究ではこれを1細胞レベルで明らかにする新手法を確立し、がんの不均一性を説明する新しい概念を提唱します。

3：2の将来に繋がる結果予想・目標

本研究によって、がんが治療抵抗性となるより根源的な背景が明らかになり、新たな治療標的や新たなバイオマーカーの確立につながります。がんの不均一性を治療標的とすることで、がんの「total cell kill」を達成し、イタチごっこを終わらせることを目指します。

4：全国のRFL関係者に一言メッセージ

ご支援をいただきまして、ありがとうございます。この研究を理想だけで終わらせることなく、将来のがん医療を変える基礎とするべく、尽力したいと思います。多くのがん患者さん、そのご家族、将来の人々を常に視野に入れ、社会に貢献できるような研究を展開していきます。